

クリスマスプレゼントと社会見学

CMIP 代表マーク神父メール・メッセージ (1/8) より

クリスマスと新年おめでとうございます！

たった今、チボリ町の地区集会から帰ってきたばかりです。先週の1月4-5日には、CMIP運営4校の先生方の研修をしました。指導は2017年度からCMIP4小学校の校長に赴任したアーチー神父です。

12月の6年生対象の社会見学（写真右：Education Tour 2017）にはラムアフス、アトモロック、ナブルの計67名が参加しました。28日には、CMIPの教師や奨学生のクリスマスパーティーが開かれ、奨学生にはHANDSからのプレゼントが手渡されました。今年は「枕」になりました。ありがとうございます。

嬉しいお知らせが二つあります。

以前HANDSの事業でアグロフォレストリーを実施したチボリ町のスフ地区ではカカオやコーヒーの収穫が始まりました。バナナについてはすでに2、3年前から家族の食用として、子どもたちの栄養改善に役立っていて、一部は現金収入源になっています。

もう一つは、アトモロック地区が農地改革省よりピラーンの先祖伝来の土地保証(CADCs/Certificate of Ancestral Domain Claims)を受けたことです。これで鉱山開発等により荒らされる心配が減りました。

なお、昨年から各校舎の修理を進めています。HANDS支援の教室は古いものは20年近くになります。

今年もどうぞよろしく。神のご加護を！

(文責・山崎)



アトモロック小6年生8名と引率のレスリー先生(右端) CMIP本部のあるジェネラルサントス市ノビシエートで



ナブル・カマガヤ小6年生36名(うち当会奨学生は2名)。ナブル小は鎌ヶ谷市の市民グループICECKの校舎建設費ご支援により2013年6月開校しました。近隣に公立校がなく、長く待ち望んでいた学校で、今は、生徒数520名と、CMIP校の中で最大規模になりました。

朝6時前に出発して、徒歩とトラックでジェネラルサントスに着いたのは午後2時ごろです。



見学先は、昨年のジェネラルサントス空港や消防署のほか、今年ラジオ放送局も加わりました。

(放送設備の説明を聞くラムアフスの6年生)

医師、看護師を目指す奨学生は、それぞれ病院実習での感想、ゴールに向けての決意を寄せてくれました



病院実習や村の巡回診療で頑張っていますーダバオ医大に学ぶアンの報告よりー

今年6月の卒業に向けて、病院や村での診療実習を頑張っています。患者さんの家族からの「ありがとう！」に落ち込んだ心や疲れが癒されました。医大から車で2時間の僻地の診療に参加した時(写真:左がアン)も村の人々に色々助けられました。そこでは、尿・血液・血糖値等の各検査を無料で実施しました。予防接種、妊婦検診、傷の手当その他の治療もしました。この巡回診療では、技術や知識のレベルアップだけでなく住民との交流を楽しみました。(本奨学金は会員・宮崎純一さんのご協力によるものです)

JOFPA 基金奨学生・コ罗纳ダル市 NDMU 大学看護科 3年ゴルドィ・マリーの手紙より

11月6日に始まった後期では7教科20単位の講座をとり、月曜日と火曜日には病院実習があります。さらに、ダバオの精神病院での看護実習や卒業論文のテーマ決定等々、この3年生後期は今まで以上に気を引き締めています。これらに対処するには、常に勤勉を忘れないことと時間をうまく使うことです。ゴールまで残されているのは1年半。学位取得を報告できる日が待ち遠しいです。頑張ります！